

- [分類] 普及技術
 [成果名] 移植水稻用初期除草剤メテオ1キロ粒剤、メテオフロアブルは水田雑草防除に有効である
 [要約] 水稻初期除草剤としてメテオ1キロ粒剤を1kg/10a、メテオフロアブルを500ml/10a 植代後～移植前7日または移植直後～ノビエ1葉期までに処理することで効果的に水田一年生雑草、ホタルイの防除が可能である。
 [担当] 農業試験場作物部、農業技術課
 [部会] 作物部会

1 背景・ねらい

単一成分で除草効果の高い移植水稻用初期除草剤の実用性を検討し、新しく利用できる剤として普及技術とする。

2 成果の内容・特徴

- (1) 水稻初期除草剤として、メテオ1キロ粒剤1kg/10a、メテオフロアブル500ml/10aを植代後～移植前7日、または移植直後～ノビエ1葉期までに湛水散布することで効果的に水田一年生雑草、およびホタルイの防除が可能である。

農薬登録内容

メテオ1キロ粒剤

[一般名および成分含有量] ペントキサゾン：2.5%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性]： ペントキサゾン：B類

[対象作物に対する適用登録状況]（平成25年10月7日現在 JPP-NET 確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の使用 回数
移植水稻	水田一年生雑草及びホタルイ、マツバイ	湛水 散布	砂壤土～ 埴土	植代後～移植前 7日又は移植直 後～ノビエ1葉 期ただし移植後 30日まで	1kg	1回

メテオフロアブル

[一般名および成分含有量] ペントキサゾン：5.0%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性]： ペントキサゾン：B類

[対象作物に対する適用登録状況]（平成25年10月7日現在 JPP-NET 確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の使用 回数
移植水稻	水田一年生雑草及びホタルイ、マツバイ	湛水 散布	砂壤土～ 埴土	植代後～移植前 7日又は移植直 後～ノビエ1葉 期ただし移植後 30日まで	500ml	1回

3 利用上の留意点

- (1) 本剤は中期、中後期除草剤との体系で使用する。
 (2) 利用上の留意事項は、「農作物病害虫・雑草防除基準（長野県）」の除草剤の使用法（初期除草剤）を参照する。
 (3) 本試験は移植4日前散布で実施しているが、現在は登録変更により移植7日前までの散布となっているので移植6日前以降～移植前日までは使用しない。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

(1) メテオ1キロ粒剤

ア 平成23年に農業試験場で実施した試験では、移植後20日調査で葉齢の小さいホタルイが若干残存した(表1)。しかし問題となる残草量ではなく、移植前4日からノビエ1葉期までの処理で体系処理の前処理剤として実用性があると考えられた(表1)。薬害はなかった(データ略)。

表1 メテオ1キロ粒剤の雑草防除効果(移植後20日)^{a)}(平成23年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{c)}		ノビエ	一年生広葉 ^{d)}	ホタルイ	合計
	処理量(/10a)					
メテオ1キロ粒剤 ^{b)}	-4日	1kg	t	0	12	7
	+0日	1kg	t	1	25	15
	ノビエ1葉期 1kg		t	1	10	6
(比較)ソルネット1キロ粒剤 ^{b)}	+0日	300ml	0	t	6	3
無処理	—		0.5	2.1	3.8	6.4

a) 除草剤各処理区の数値は対無処理比(%)。無処理区は乾物重(g/m²)。発生はあるものの、四捨五入して0になる場合は「t」として示した。

b) 中期剤としてザーベックスDX1キロ粒剤を移植後20日に散布。

c) 処理時期の+は移植後日数。

d) コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場(標高340m、中粗粒グライ土)。品種は「あきたこまち」。

中苗3本植(22.2株/m²)。代かきは5月9日、移植は5月13日。1区7.2m²2区制。

調査方法：中期剤処理前の移植後20日に調査した。

イ 平成25年に飯田市の現地ほ場で実施した試験では、除草効果は高かった(表2)。薬害はなかった(データ略)。

表2 メテオ1キロ粒剤の雑草防除効果^{a)}(平成25年、下伊那農業改良普及センター)

除草剤名	処理時期 ^{c)}		ノビエ	コナギ	その他 一年生広葉	ホタルイ	合計
	処理量(/10a)						
メテオ1キロ粒剤	+4日	1kg	0	t	0	14	3
(比較)サキドリEW ^{b)}	+4日	500ml	0	t	3	t	1
無処理	—		0.4	8.8	0.5	2.2	11.9

a)、c)は表1と同じ。

b) 比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：試験場所は飯田市下殿岡(標高520m、褐色森林土)。品種は「天竜乙女」、中苗、機械移植。

入水は5月29日、代かきは5月30日、移植は6月1日。1区7a、反復なし。

調査方法：7月8日に50×50cmの枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は1カ所の調査を行った。

(2) メテオフロアブル

ア 平成23年に農業試験場で実施した試験では、移植前4日からノビエ1葉期までの処理で除草効果が高かった(表3)。薬害はなかった(データ略)。

表3 メテオフロアブルの雑草防除効果(移植後20日)^{a)}(平成23年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{c)}		ノビエ	一年生広葉 ^{d)}	ホタルイ	合計
	処理量(/10a)					
メテオ1キロ粒剤 ^{b)}	-4日	1kg	0	0	9	5
	+0日	1kg	0	0	1	1
	ノビエ1葉期 1kg		0	0	1	1
(比較)ソルネット1キロ粒剤 ^{b)}	+0日	300ml	0	t	6	3
無処理	—		0.5	2.1	3.8	6.4

a)、c)は表1と同じ。

b) 中期剤としてザーベックスDX1キロ粒剤を移植後20日に散布

d) コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場(標高340m、中粗粒グライ土)。品種は「あきたこまち」。

中苗3本植(22.2株/m²)。代かきは5月9日、移植は5月13日。1区7.2m²2区制。

調査方法：中期剤処理前の移植後20日に調査した。

イ 平成 25 年に喬木村の現地ほ場で実施した試験では、コナギ、ホタルイの残存があったが実用上問題はなく除草効果は高かった（表 4）。薬害はなかった（データ略）。

表 4 メテオフロアブルの雑草防除効果^{a)}（平成 25 年、下伊那農業改良普及センター）

除草剤名	処理時期 ^{c)} 処理量(/10a)	ノビエ	カヤツリ グサ	コナギ	一年生 広葉	ホタルイ	合計
メテオフロアブル	+5 日 500ml	0	0	20	0	16	17
(比較) サキドリ EW ^{b)}	+5 日 500ml	0	0	0	0	7	1
無処理	—	0.3	0.4	10.1	0.2	15.0	26.0

a)、c)は表 1 と同じ。

b)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：試験場所は喬木村（標高 550m、褐色森林土）。品種は「コシヒカリ」、中苗、機械移植。入水は 5 月 16 日、代かきは 5 月 17 日、移植は 5 月 24 日。1 区 7a、反復なし。

調査方法：7 月 5 日に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

普通作物の新規農薬等の効果試験、平成 23、25 年度(2011、2013 年度)、民間受託